

5 回 生 必 修 科 目 「古 典 B」 授 業 の シ ラ バ ス

教科名	国語	科目名	古典B	単位数	3単位
科目の 目 標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。				
教科書	改訂版古典B 古文編（第一学習社） 改訂版古典B 漢文編（第一学習社）		副教材	学習課題集 古文編・漢文編（第一学習社） みるみる覚える古文単語 300+敬語 30 改訂版（いいずな書店） 常用国語便覧（浜島書店） 新明説総合古典文法（尚文出版） 漢文必携（桐原書店）	

1 学習の目標

- （１）古文において、文語のきまりを理解し、語彙を豊かにし、言語文化の特質や、我が国の伝統と文化について理解を深め、作品を読み味わう力を身につける。
- （２）漢文において、文語のきまりを理解し、語彙を豊かにし、言語文化の特質や、我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深め、作品を読み味わう力を身につける。
- （３）様々な文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする力を養う。

2 学習について

- （１）持ち物は、教科書・ノート・新明説総合古典文法（古文の時）・漢文必携（漢文の時）です。他に必要なものがある時には、授業時に連絡します。
 - （２）新しい単元に入る時は本文を全文読み（音読）、ノートを準備すること。
 - （３）わからない言葉は自分でどんどん調べましょう
 - （４）＜古文＞文語のきまり（品詞と品詞の用法、活用、意味など）を理解し、文の構成を把握して、文章の展開や流れをつかみ、主題を理解したり、作品を読み味わったりすることを目指しよう。
- ＜漢文＞訓読のきまりを理解し、基本的な句形や語や文の構成を把握して、主題を理解したり、作品を読み味わったりすることを目指しよう。

3 評価について

（１）評価の観点

観 点	趣 旨
①知識・技能	文語のきまりや訓読のきまりを理解するとともに、文章の組み立て、語句の意味、用法および表記の仕方などを理解し、語彙力を身につけている。
②思考・判断・表現	人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、自分の考えを深めたり発展させたりしながら、古典としての古文と漢文を正確に読み取る。
③主体的に学習に取り組む態度	古典を読む楽しさを味わったり、伝統的な言語文化に触れたりすることの意義を理解することを重視し、古典への関心を高めようとしている。

（２）評価の方法（以下観点①～③は「（１）評価の観点」と対応する）

観 点 \ 評 価 材 料	定 期 考 査	小テスト 等	発 言 発 表	ノ ー ト	課 題 振 り 返 り
①知識・技能	○	○	○	○	○
②思考・判断・表現	○		○	○	○
③主体的に学習に取り組む態度			○	○	○

＜学習アドバイス＞

- 古文が読めるようになるためには、まず文語文法の知識と語彙力を身につけなくてはなりません。一つ一つの言葉の意味を理解することが一番のポイントです。次に、一文が長く、主語が明示されていないのが古文の特徴です。意味的なまとまりに分けながらあらすじをつかみ、時代背景や日本の伝統文化に興味を持ちながら読んでいきましょう。
- 漢文が読めるようになるためには、まず訓読に従って正しく読め、句法の知識を身につけなくてはなりません。基本の文構造を把握できることが一番のポイントです。次に、漢字だけで書かれていることが漢文の特徴です。インスピレーションをふんだんに働かせながら漢字の意味を類推し、読解を進めていくことが大切です。
- 古典に親しむことで、人間や社会、自然などに対する考え方や感情を読み取り、古の人々のものの見方や感じ方を自分と結びつけて考えることを意識しましょう。

高い知性						豊かな人間性			健康な心身		郷土愛と国際性	
探究心		情報活用力		調整力		自律心	寛容さ	感受性	生命尊重の心	強くしなやかな心身	日本人としての誇り	多様性の尊重
関心・意欲	問題発見力	情報収集力	論理的思考力	共感的態度	意見交換・調整力							
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
課題に関心を持ち、問題発見・解決へ向けて意欲的に取り組むことができる。	生じている問題や今後生じうる問題について理解し、解決方法を提案することができる。	多様な視点から必要な情報を収集し、整理・分析し、意見に結びつけることができる。	事象や関係性を把握し、多様な情報を整理・分析し、論理的に思考することができる。	相手の感情、思考、行動を理解し、共感と調整を示すことができる。	他者の主張を理解し、自分の主張と調整し、互いに納得できる結論を得ることができる。	強い意志をもち、周囲に流されることがなく、困難に立ち向かうことができる。	異なる価値観や多様な特質を理解し、尊重しながら、互いを高め合うことができる。	有形無形の美や自然に対し、その価値を素直に受け止めることができる。	命の尊さと健康の大切さを理解し、何より自他の生命を尊重することができる。	困難に負けない強い心と体を持ち、あらゆる課題に対して柔軟な対応ができる。	郷土に対する深い理解と愛着をもち、日本のよさを伝えることができる。	世界の多様性を理解し、多面的・多角的な視野から他者と接することができる。

4 授業計画

単 元	学 習 内 容	評 価 の 観 点	資 質 ・ 能 力
1. 説話 (古文)	「小式部内侍が大江山の歌の事」	① 和歌の修辞、反語などを理解する。	A B C D E F G H I J K L M
2. 故事・寓 話 (漢文)	「推敲」 「呉越同舟」 「知音」	② 古文に親しみをもち、内容を理解する。 ③ 登場人物の行動や心情を読み味っている。 ④ 正しい訓読(書き下し文)をする。 ⑤ 基本的な句形を理解し口語訳する。 ⑥ 故事成語の由来を正確に理解し、現代における故事成語の使い方を習得する。	
3. 随筆一 (古文)	「ゆく川の流れ」「安元の大火」 (『方丈記』)	① 助動詞の知識を口語訳に生かす。	
4. 物語一 (古文)	「小野の雪」 (『伊勢物語』)	② 対句表現・反語などを踏まえ口語訳をする。 ③ 短い歌物語を読んで、和歌に親しむ。 ④ 話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。	
5. 古代の史 話 (漢文)	「鼓腹撃壤」 (『十八史略』)	① 疑問・反語の句形を理解し口語訳する。 ② 古代中国の理想の政治、為政者のあり方を理解する。	
6. 名家の文 章 (漢文)	「雑節」	③ 唐代の名文を鑑賞する。 ④ 感嘆・疑問の句形を理解し口語訳する。 ⑤ 比喩について、考察する。	
7. 随筆二 (古文)	「春はあけぼの」 「村上の先帝の御時に」(『枕草子』)	① 人間、社会、自然などに対する作者の思想や感情を読み取る。	A B C D E F G H I J K L M
8. 物語二 (古文)	「光る君誕生」 「若紫」(『源氏物語』)	② 敬語についての理解を深める。 ③ 助動詞についての理解を深め、助詞の知識を口語訳に生かす。 ④ 中古物語文学の最高傑作を鑑賞する。	

9. 項羽と劉邦（漢文）	項羽と劉邦：「鴻門の会」 「四面楚歌」（『史記』）	① 登場人物の行動や心情を読み取る。 ② 本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ③ 司馬遷の描く人間の生き方や運命について考える。	A B C D E F G H I J K L M
10. 日記（古文）	「門出」「源氏の五十余巻」 （『更級日記』）	① 日記を読んで、人間、社会、自然などに対する作者の思想や感情を読み取る。 ② 文章の内容を展開に即して的確に捉える。	A B C D E F G H I J K L M
11. 志怪と伝奇（漢文）	「枕中記」	③ 中国の古小説を、鑑賞する。 ④ 限定・反語の句形を理解し口語訳する。	
12. 物語三（古文）	「忠度の都落ち」 （『平家物語』） 「忠信、吉野山の合戦の事」 （『義経記』）	① 和漢混淆文をしっかりと読み、古文に親しむ。 ② 中世の叙事的文学（軍記物語）を鑑賞する。 ③ 付属語や敬語の知識を深める。 ④ 音便や挿入句といった、語り物の特色について理解する。	A B C D E F G H I J K L M
13. 漢詩の鑑賞（漢文）	中国の詩：「独坐敬亭山」「秋風引」 「九月九日憶山東兄弟」「碩中作」 「除夜寄弟妹」「江村」	① 唐詩についての知識を整理する。 ② 比喩表現や対句を踏まえ口語訳する。 ③ 絶句と律詩を鑑賞する。	A B C D E F G H I J K L M
14. 宋・元代の文章（漢文）	「医業談笑」 「賢母辞拾遺」	① 宋・元代の文人の著した文章の面白さを味わう。 ② 受身、反語、使役などの句形を理解し口語訳する。	A B C D E F G H I J K L M
15. 和歌俳諧（古文）	『万葉集』 『古今和歌集』 『新古今和歌集』 「春夏秋冬」	① いわゆる三大集について、文学史的な知識を深める。 ② 三大集それぞれの特徴を理解し、鑑賞する。 ③ 修辞を理解し口語訳する。	A B C D E F G H I J K L M
16. 儒家の思想（漢文）	儒家の思想：『論語』『孟子』	① 儒家の主張の概要を理解する。 ② 訓読し正しい書き下し文に改める。 ③ 反語、限定、疑問、仮定、二重否定などの句形を理解し、それに即して口語訳する。	A B C D E F G H I J K L M
16. 道家・法家の思想（漢文）	道家・法家の思想： 『老子』『莊子』『韓非子』	① 道家・法家の主張の概要を理解する。 ② 訓読し正しい書き下し文に改める。 ③ 比較、疑問、二重否定などの句形を理解し、それに即して口語訳する。	A B C D E F G H I J K L M